

浜益学園 開校準備部会だより

【発行】開校準備部会事務局

◇ 令和7年度第2回浜益小・中学校運営協議会が開催されました

- 開催日 令和7年11月11日（火）
- 開催時間 18:00～19:00
- 開催場所 浜益コミュニティセンターきらり
- 出席委員 18名（4名欠席）
- 傍聴者 0名

1. 校歌が決定

浜益学園校歌
作詞・作曲 吉弘文人

蒼く連なる 遠い山脈
海を渡った 古の道
先人の思い 心に乘せて
夢の地図を 昊に広げ

この手から 次の手につなぐ
心がここにある 浜益学園

淡い光が 照らす木洩れ日
友と笑えば そよ風の中
春夏秋冬 季節はめぐり
俱に開く 明日の扉

この手から 次の手につなぐ
絆がここにある 浜益学園

遠く潮鳴り 昊に響けば
明日の足音 旅立ちの時
海に吹く風 願いを乗せて
夢に届け きつと届け

この手から 次の手につなぐ
光がここにある 浜益学園



令和6年10月に開催した第3回部会において、校歌の作成を浜益小学校の吉弘先生に依頼することを決定し、ご本人より了承を得て、制作を進めていました。令和7年8月末には、吉弘先生自ら建築中の浜益学園校舎に入り、そこから見える景色などから、イメージを膨らませてもらいました。

このたび、作詞・作曲が完了したとして、学校運営協議会にてお披露目されました。協議会には吉弘先生も参加し、校歌に込められた思いなどを説明してもらいました。協議会では、拍手をもって校歌の完成が了承されました。

【校歌に込められた想い】

- 「校歌の作成を吉弘先生にお願いします。」という言葉을いただき、心の中では「よっしゃー！」と喜びの音があがりました。黄金小学校、浜益小学校、再び浜益小学校と、足かけ20年の勤務。住んで30年の浜益。そんな浜益に誕生する小中一貫の「浜益学園」の校歌を創らせていただける。こんなに嬉しいことが他にあるでしょうか。
- 建設中の浜益学園の屋上に上らせていただきました。黄金山も群別岳も見えません。そこから見たのは、遙か彼方の小樽に続く「海の道」です。古の道を目の当たりにして「以前は皆さん、ここから船に乗って浜益を旅立ったんだ…」という思いとともに、壱番の歌詞が頭に広がりました。
- 振り向くと、そこには秋の陽に輝く黄金色のカラマツ林がありました。西に傾いた陽の光を受けて校舎を照らす木漏れ日に、弐番の歌詞が思い浮かびました。
- 再び海の彼方に目をやると遙か彼方に、小樽から札幌にかけて広がる都市の遠景に、ここ浜益を出ていく年齢を迎える、参番の歌詞を呟いていました。
- 自分が感じた率直な気持ちで創った歌ですが、新しく誕生する「浜益学園」に対して、思い浮かぶものの全てを盛り込むことができたと思っています。

2. 今後の予定

浜益学園の建設工事も最終盤となり、令和8年4月の開校まで残りわずかとなっています。

●浜益学園予定表【令和7年度】

R7. 12月	工事完了・完了検査
R8. 1月	浜益学園 引渡し
2月	地域内覧会 ※ 引越し作業（1回目）
3月	引越し作業（2回目）

※詳細が決まり次第お知らせします。

3. その他

- 部会の会議資料や議事録は、教育委員会のホームページで公開しています。
ご覧になりたい場合は、下の二次元バーコードからアクセスしてください。
(石狩市教育委員会_総務企画課サイト内)



次回の会議は...

現在のところ、決まっていません。
決定次第、ホームページ等でお知らせします。